

ジャグパル

JugPal

2004年1月1日 第22号



インタビュー

【なななさんとYoshimiさん】

今回は女性クラウンの“ななな”さん(以下ななちゃん)と“Yoshimi”さん(以下よっちゃん)をお迎えしてのインタビューです。

ななちゃんは、赤くんやカラクサマンなど突飛なキャラクタで我々の前に出現して、彼女曰く“おバカな世界”で笑わせてくれます。

よっちゃんは、ウクライナのサーカス学校に留学したことでさらに飛躍したようで、これまた独自の世界を築いています。



なななさん(左)とYoshimiさん(右)

クラウンへの扉を開く

看護婦だったよっちゃんは、短い人生の大半を病院で過ごしている子供たちの面倒を見ながら「この子供たちには、ジェットコースターのような楽しみは無縁なんだなあ。私がジェットコースターになれないかしら。」と、そんなことを思っていた時に、道ばたで何か面白いことを演(や)っている人、つまり大道芸人をみかけ、自分なりの「ジェットコースター」を見つけたと感じました。

しかし、パフォーマンスが自分にできるのだろうか、どこで習えばよいのだろうか、そんな疑問の中の「五人囃子」(註1)の公募を知り、オーディションを受けて見事合格!! その時点で看護婦をやめ、クラウンの道に入ることとなりました。もちろん病院の子供たちのジェットコースターになる夢は捨ててはいませんが、今はクラウンになることがまず第一と考えています。インタビューの中で当然パッチ・アダムスさん(註2)の話題も出て、映画を見ながら泣いたり、察するに今後よっちゃんのケアクラウン(クリニックラウン)としての活躍が見られるかもしれません。

よっちゃんが看護婦ならば、ななちゃんは対照的に子供の頃は病気がちで入退院を繰り返し、幼心にも「死」を意識することもあったそうです。その頃は同世代の友人たちとの遊び方、つきあい方も良く分からず、自分の居場所が無いようなそんな不安感を抱いていました。体調が落ち着いた頃から少しずつ、小劇場演劇、TVドラマなどの俳優として活動を始めます。全く別の人を演じることにより逆に自分の存在(居場所)が確認できる、そんな魅力を演劇に感じていました。

ななちゃんは、必ずしも演劇一筋という芸歴ではなく、ショーダンスなども経験するなど、一時自分が何をやりたいのか分からずに悩んでいましたが、そんな時に来日していたアメリカの「リングリングサーカス」に行った時に、客席に入り込んでグリーティングをするクラウンを見て、こういった楽しませ方もあるんだと、文字通り頭を打たれるような衝撃に出くわし、その場で涙があふれ出たそうです。時期を同じくして、日本国内に「クラウンカレッジ」(註3)が開校することを知ったななちゃんは迷うことなく入学を申し込みました。ここからクラウンとしての本格的な活動が始まりました。

二人の出会い

お二人は先に話の出た「五人囃子」のメンバーとして、初めて出会いました。「五人囃子」では劇場公演数では約50回を数え、ウクライナでは40日間滞在し、国際演劇祭に出演したりと現地で多くの公演もこなしました。

このウクライナでは海外滞在ということもあり、文化的な背景の相違からくる現場での認識のずれ、ハプニングの続出で本当にいろいろなことがあったそうです。ハードスケジュールからの疲労による筋肉の痛みに耐えるメンバーに、看護婦だったよっちゃんが毎回痛み止めの注射を打って公演を続けるなどのエピソードもお伺いしました。「五人囃子」の活動を終えて特に感じるのは、芸の向上はもとより、現場での対応力や何事にも動じない強さが身に付いたということです。

作品創り

ななちゃんは、ひとつの作品創りには3ヶ月位かかるそうです。電車の中やコーヒーショップにいる時などいつもアイデアを考えていて、浮かんでくるアイデアをメモしておき、作品創りをする時にはまるでパズルのようにそれらのアイデアをつなげたり、切り離したりと組み立てていきますが、最初の構想とは全く違ったものが出来上がることも往々にしてあるそうです。そして徐々に作品が見えてきた頃には、観客にとって気持ち良いものかどうかを客観視してみて、手を加えていきます。

よっちゃんの場合、例えばジャグリングが表立って出てくるような動きのある作品を創る時には、まず曲を聴いてみて自分の演技が映像のようにイメージとして浮かぶかどうかを感じとり、それをとりかかりとすることもあるそうです。

ジャグリング

ななちゃんは、大道芸は別としてジャグリングを単体として見せることはないとのこと。ジャグリングには例えばマイムとの組み合わせの面白さを表現し、不思議な世界を見せるような演出上での使い方を想定しています。言い換えると自分のキャラクタを見せやすいようにジャグリングの使い方を配慮・工夫しています。

よっちゃんは、ウクライナのサーカス学校に1年半の間通っていましたが、その時に先生に「道具には道具の素材がある」と言われ、ボール、クラブ、ステッキ、帽子のどれかひとつを選ぶように指示されました。そこで彼女は帽子を迷わず選びました。それはクラウニングでの帽子の可能性を感じたからです。帽子は投げることも回すこともできるし、赤い帽子だと女性を、黒い帽子だと男性を表現できるなど、作品の持つテーマ性に臨機応変に対応してくれる道具としての可能性を感じたのです。

従ってジャグリングをななちゃんと同じように“技”を見せるのではなく作品の持つテーマを表現する上での道具(ツール)としてとらえています。反面、技術を見せるジャグリングではないので、演技上失敗が許されないというプレッシャーは相当重いようです。

これから

ななちゃんは、今はとにかく道化師にこだわりたいと思っています。お客さんを笑わせるというのではなく、何おバカなことやってんだらうアイツは、と笑われるような道化師…ビジュアルコメディアンとでも言ったらよいのでしょうか、そんな道化師にこだわっていきたいのです。「楽しんだお客さんを見て自分自身も楽しみたいと思います。」とも仰っていました。

よっちゃんは、“人”にこだわりたいと思っています。いろいろな人を表現したいのですが、どうやって表現するかは難しく、今はいろいろな窓(切り口)から人を見るようにして、作品に反映しています。

そんなお二人と一緒に公演をします。
個性の異なるお二人がいったいどんなパフォーマンスを見せてくれるのでしょうか、
今から楽しみです。

『ななな & YoshimiのそろSOLOやりますか!』

公演日:2004年1月31日(土)19:30~、2月1日(日)14:00~/18:00~
会場:テルプシコール(JR中野駅より徒歩6分)
料金:前売り2,300円/当日2,500円
予約・問合せ:電話(080-3257-3118)/メール(mouikai777@yahoo.co.jp)

(参考)

なななさん:

メール:mouikai777@yahoo.co.jp

Webサイト:

<http://www.geocities.co.jp/Hollywood/6173/>

Yoshimiさん:

メール:michannel@t.vodafone.ne.jp

Webサイト:

<http://www4.airnet.ne.jp/miccha/>

マイム+クラウン+ダンス+アート+大道芸?????

**ななな & Yoshimiの
そろSOLOやりますか!**



2004. 1/31 sat 19:30 ~
2/1 sun 14:00 ~
18:00 ~
*開場は各回 30分前

出演: ななな
Yoshimi
照明: 稲葉 豊
音響: 木下真紀
宣伝デザイン: 小沢嘉代美

◆前売 2,300円
◆当日 2,500円
◆ご予約お問い合わせ
tel:080-3257-3118(Yoshimi)
mouikai777@yahoo.co.jp

協賛 Harumi Triton

中野サンプラザ
丸井
サンジェルマン
丸井
丸井

←高円寺
JR 中野駅
商口

テルプシコール
(JR中野駅より徒歩6分)
中野区中野3-49-15 1F
tel 03-3338-2728

公演案内

註1:五人囃子

女性5名による劇場クラウンとして誕生し1999年から約2年間活動。
<http://www.circus-mura.net/kouhou/project/gonin/goninbayashi.html>

註2:パッチ・アダムス

本名ハンター・アダムス。医学博士で、愛と笑いが人を癒すことに目覚め、自らクラウンとなって患者に接することを始めた。ビジネス志向の医療に反対し、愛とユーモアを治療の根底におき、無料で診察する共同体形式の病院施設ゲズンハイト・インスティテュートをウエストバージニア州ポカホンタスに設立。
<http://www.patchadams.org/>

註3:クラウンカレッジジャパン

アメリカのリングリングサーカスのクラウン養成期間クラウンカレッジの日本分校として1990年に開校するが、三期で閉校。

[安部 保範 <chansuke@chansuke.net>]



ビデオ紹介

【小ネタ、小ネタ、小ネタ】

最近、ジャグリングに関するビデオが数多く流通するようになり、さまざまなジャンルの解説付き教則ビデオやデモンストレーション・ビデオが手に入るようになりました。ボール、クラブといった定番から始めて、ハット、バルーン、ポイまで、ほとんどすべての道具について何らかのビデオがあります。

今回ご紹介するのは、道具では分類できず、芸としても特に名が付いていないような芸の解説ビデオ2本です。

ジャグリングなどのショーの合間にはさむのに都合がよい芸という意味で、ここではあえて便宜上「小ネタ」と呼ばせてもらいましょう。講師2組はそれぞれマジック、ジャグリングの分野で一流のパフォーマーですが、ともに共通するのは「芸の引き出しが大きくて広く、さまざまなジャンルの芸をたくさん持っている」ことです。

ビデオの見方としては、紹介される数々の技や芸をすべて身に付けようなどと考えず、その中から気に入った技やネタを拝借して自分のパフォーマンスに取り入れたり、「こんな芸もあるのか」「こんなアイデアもあるのか」という刺激を受けて自分独自の芸を考えだしたり、というのが正しいと思います。特にコメディ志向の人にはお勧めです。

また、どちらのビデオも講師が芸達者なので見ていて楽しい造りになっています。ボールやクラブなどの一般的なジャグリングの難しい技や珍しい技、新しい技が見たいという人には不向きです。ある意味、これらを見る人を選ぶビデオだと思います。

（ Charlie Frye 's ECCENTRICKS ）

講師の Charlie Frye(チャーリー・フライ)は、マジシャン兼ジャグラー兼コメディアン of 芸達者で、「マダム風」キャラクターの夫人と組んでステージに立ち、「技で驚かせても必ず笑わせる」芸風で活躍しています。IJA の会報 JUGGLE 誌に ECCENTRICKS(エキセントリック)というコラムを5年間連載し、毎号1つか2つの小ネタとそのやり方を紹介し続けています。

このビデオは連載コラムの実演版とも言うべきもので、いろいろな小ネタを織り込んだ数分の演技を、彼の実際のステージに近い形で実演して見せて、その後1つ1つのネタに分解して説明していく形式です。連載で読んだだけでは正直面白いのかどうか分からなかったネタも、実際の演じ方を見ると「なるほど」と感心させられます。これは、ビデオで動きを見せるだけでなく、「見せ方」「他の芸とのつなぎ方」をも紹介しているためだと思います。「スプーンの鼻バランス」「片手マッチ擦り」「火のついたマッチの鼻バランス」の手順を見ると、小ネタというのは単体で見せても効果的ではなく、つないでこそ効果があるのだということが分かります。

一方で、このビデオの内容の6割ぐらいはマジックです。「シカゴの4つ玉」とバルーンが組み合わされていたり、ダイスを使ったマジックとダイス・スタッキングが組み合わされていたり、「カップ・アンド・ボール」とジャグリングが組み合わされていたり、と一般的なマジックとは一味違った効果的な演出を見ることができ、マジックのビデオとしても面白く、マジシャンにとってもためになるでしょう。

ただし、マジックをやらないジャグラーにとってはうれしくない面もあります。このビデオで紹介されているマジックの原理は定番でよく知られており、それほど難しいものでもないのですが、ある程度の基礎技術は必要なので、まったくの素人には簡単には手が出せません。また、いくつかの定番マジックのタネや仕掛け、原理を知ってしまうことになるので、「観客としてマジックを見る楽しみ」を失ってしまうことにもなります。観客としてマジックの不思議を楽しみたい人は見ないほうがいいかも知れません。

また、「自分はジャグラーだから、目に見える純粋な技術で勝負したいのだ」という人にも勧めません。6割のマジックの他、2割は「仕掛けのあるいんちきやギャグ」も紹介されているからです。講師はマジシャン、コメディアンである上、プロとして観客を楽しませるために手段を選びませんから、効果として必要なら仕掛けもマジックも使うのです。

マジック、ジャグリング、コメディを問わず、「これはどこの店で買えるネタ」「これは誰から教わった演出」という感じで、律義にクレジットを出している点には、好感が持てます。

私個人としては、このビデオの続編として「ジャグラー版」を作りたいと思います。まだまだ彼の芸の引き出しにはいくらでも材料が詰まっているはずですし、彼のサイトで見られるプロモーション・ビデオにもジャグリングのほうに主に取り上げられているのですから。

全編60分で英語のみ、字幕はありません。演技の部分はサイレントに近いので英語が分からなくても楽しめますが、説明の部分は聞き取りが必要です。英語の発音自体ははっきりときれいで分かりやすく、スピードも普通で速すぎません。説明は要点を押さえています。簡潔です。

マジックの説明はかなり丁寧ですが、スプーンや椅子のバランスなど身体を使う技には「やればできるようになる」的な解説もありました。映像の質は良いほうだと思いますし、場面転換などの効果にも凝っています。

価格は 29.95 ドル(送料別)で、
・講師のサイト:
http://www.charliefrye.com/ の他、
・Dube:
http://www.dube.com/
・Serious Juggling:
http://www.seriousjuggling.com/
などで買えます。2001年発売。

(The Art of Showing Off)

「自分達はプロの Show-off (見せびらかし屋)」であると自認するジャグラーのコンビ Raspyni Brothers (ラスピニ・ブラザーズ) が講師となって、彼らが持つありとあらゆる小ネタと芸の数々を休む暇もなく見せていきます。

ジャグリング愛好家だけでなく一般の人を対象にし、初歩的なフレア・バーテンディングを皮切りに、基本的なジャグリング、初歩的なマジックや指先の技法、一発芸などを、場所を変え、品を変え、演じては説明していきます。出てくる道具は、普通のジャグリング用具はすべて一通り、皿、泡立て器、ピンポンボール、バスケットボール、フットバッグ、バルーン、トランプ、コイン、トゲトゲの付いた園芸器具、ゴルフクラブ、りんご、クラッカー、卵、ジャガイモ、まだまだ続きます。

初歩的、基本的と書きましたが、ちょっとやそつでは真似できないような難しい芸や彼らのオリジナル芸も数多く含まれており、一度は見てみる価値があります。そもそも、これだけの数の技や小ネタを知っているだけでもすごいし、2人で全部こなしてしまうのは驚きです。ビデオの中頃と終わりには、彼らの「普通のジャグリング」も収録されています。

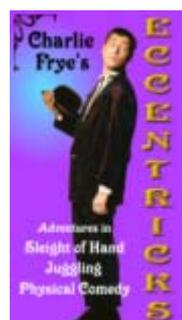
さらに2人ともよくしゃべります。基本的に片方が芸をしているときは、もう一方は説明をしたり、冗談を飛ばしたりして、全編60分おしゃべりの途切れるひまがありません。その分、しゃべる速度も速く、日常会話に近いし、ギャグも混ざっているのでも、英語の聞き取りは難しい部類に入ると思います。もっとも、せりふが必要なマジックなどを除いた80%ぐらいの内容は、しゃべりが分からなくても理解でき、楽しめると思います。

説明の程度は、ネタによって違っており、かなり詳しく手順を教えるものもあれば、やってみせるだけでまったく説明のないものもあります。特にジャグリング系のネタに説明がない傾向がありますが、ジャグラーにとってはそれほど問題にならないでしょう。

映像の程度は良い部類に属し、場面に応じていろいろなセットで撮影しています。冒頭に一瞬ノイズが入りますが、演出の一部なのでご心配なく。

価格は20ドルから24.5ドル(送料別)で、
・Todd Smith:
http://www.toddsmith.com/
・Dube:
http://www.dube.com/
・Serious Juggling:
http://www.seriousjuggling.com/
などのジャグリング・ショップで買えます。1996年発売。
Raspyni Brothers の Web サイトは
http://www.raspyni.com/ です。

[西川 正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp>]



Charlie Frye's ECCENTRICS



The Art of Showing Off



ジャグリングとマジック

【FISM2003を見て】

IJAの会報JUGGLEの

July/August/September/October 2003号にコインによるフラリッシュ (flourish) の幾つかが紹介されていて、学生の時サークルでマジックを楽しんでいた頃の事を懐かしく思い出しました。(もう30年も前のことです)

この手のフラリッシュ系の技自体はマジックではなく曲芸的であり、マジックの合間にこういったものを披露すると華が添えられる、あるいは気分転換になるなどの効果が期待できるのかもしれませんが、私自身はマジックを演じている最中に曲芸をやる必要はないのではないかと思います。いや本当は単に怠け者なだけでした。

でも実際フラリッシュは指先や手の動きの訓練にもなるし、その種類もコインのみならずカードなど多種にわたり、ジャグリングと同じくチャレンジのしがいがあるのでジャグラーの皆さんには興味がそそられること間違いありません。

さてマジックにはタネがあり、フラリッシュとは違って観客には決して見せない“秘密の動作”、時にフラリッシュと同じような曲芸的な動作を行っていることもあります。そのためにマジシャンは、ジャグラーがひとつのトリックを習得するのと同じように何日も何十日も練習を重ねますが、このマジシャンが行う秘密の動作(ジャグリング)は決して披露されることはないのです。だからマジシャンは、ジャグリングという演技をしなくてもジャグリングの楽しさと苦しさを存分に理解しています。

さて前置きが長くなりましたが、本題に入ります。十数年前にジャグリングに魅了され、ボールを投げたはポトポトと床に落ちて家人に迷惑がられていた頃にボールを手に入れました。“ジャグリングとマジックとを融合した新しいパフォーマンスってできないだろうか。”この時イメージしていたのはボールジャグリングとマジックの「シカゴの四つ玉」との融合です。シカゴの四つ玉というのは、指の間で挟んである白い玉が増えたり減ったりするという演目で、今はどうか知らないけれど、昔は学生マジックでは定番中の定番で練習課題には必ず入っていてよく練習しました。

道具としてボールという共通点があるのだから、きっと面白い作品ができるのではと思いつつ、その具体的なイメージは浮かんでこず、きついつか誰かが見せてくれるだろうと頭の隅にしまい込んで今日に至ってしまった訳です

が、先日放映されたFISM2003(オランダ・ハーグ大会)のマニピレーション (Manipulation) 部門の優勝者ノベール・フェレさんの演技を見て、あっ、ひょっとしてこれが私のイメージしていたパフォーマンスを具現化したものではないのかと目が釘付けになりました。

シカゴの四つ玉とは少々違いますが、ボールが増えたり減ったりマジックの楽しさもあるし、見たこともない高度なテクニックを駆使したボールジャグリングも驚きで、異なったジャンルのアートの融合という意味では完成度も高く実に新鮮でした。

では面白かったかということ、実は思いの外そうでもなかったというのが私の率直な感想です。期待はずれでした。ジャグリングとマジックの楽しさが味わえる、一粒で二度美味しいこういったパフォーマンスを長年待ちこがれていたのに、実際に目にするると不満が残るのは“なんでだろう?”。

FISMは3年に一度開催され、マジックのオリンピックとも称されています。そのコンテストとして参加しているのだから、当然マジックを演じているのですが、そうは見えないのは私だけでしょうか。「マジシャンは魔法使いの役を演じる役者である」という言葉があるそうですが、魔法使いがフラリッシュのような曲芸をやるのでしょうか、ルーティンの流れの中でのちょっとしたスパイス的な使い方ならまだしも、今回の演技は残念なことにマジックが完全にジャグリングに喰われ、えっ何が不思議だったの、とマジック自体の印象が薄いものでした。

異種アートの融合が昨今盛んですが、目新しさだけにとらわれて、演者が何を表現したいのかその「核」がはっきりしていないと観る方も戸惑うばかりです。

とはいうものの、繰り返しますがこのパフォーマンスは、権威あるマジックの世界大会であるFISM2003のマニピレーション部門で優勝したのです。つまりマジック界でそれだけの評価が得られたわけで、ということは私自身が時代に取り残されたロートルということなのでしょう。

(参考)

FISM2003オランダ・ハーグ大会については、八王子マジッククラブのWebサイトをご覧ください。

<http://www.asahi-net.or.jp/BC5Y-FJWR/HMG/FISM2003/> コンテストがどのようにして審査されるのか、つまり審査基準や手順などについても載っていますので興味深いです。ご一読を。

[安部 保範 <chansuke@chansuke.net>]



お知らせ

【WEP JAPAN 横浜事務所開所】

サーカスアーティストのDioさんから、WEP JAPANの横浜事務所が12月1日にオープンしたから遊びに来てねと誘われ早速行ってきました。

WEP(World of the Entertainment Performer)は、世界各国の優れたパフォーマンスをより多くの人に知ってもらい、パフォーマーにとって活動しやすい環境を作ることを目的に設立され、現在では日本、ロシア、台湾、タイ、アメリカに事務所を構え、Dioさんはアーティストとしてだけでなく、グループの代表として超多忙な日々を送っています。

京浜急行「戸部」駅から徒歩3分ほどのビルに事務所があるのですが、パフォーマンスの練習ができるスペースもあり、そこでは吊り下げももできるような設備が整っています。出迎えてくれたのは、Dioさん、チャーリーさん(Dioさんの弟)、兼六園さんの方々に、しばしの間サーカスを中心としたパフォーマンス談義に花を咲かせました。

Dioさんは現在パフォーマンス界が抱えている様々な課題をクリアすべく、今のはやり言葉で言うところの「戦略的」にひとつひとつ手を打ち、文字通り世界を股にかけて活躍されています。

そういえばDioさんとは3年ぶりの再会ですが、相変わらず格好いい。(ジャグパル8号参照)
正直苦しいことや嫌なこともあるけれど楽しいこともいっぱいあるからね、と忙しさの微塵も感じさせることなく笑顔で話す様子は以前と変わりありません。

チャーリーさんのパフォーマンスは一度拝見したことがあるのですが、常に自分の演技に対する観客の反応をフィードバックしてかなりダイナミックに演技内容を変化させているとことで、現在の演技を是非拝見したいものです。

兼六園さんのパフォーマンスは残念ながら拝見したことはないのですが、水の無い陸でのシンクロナイズドスイミングとお伺いし、これまたかなり興味津々です。

話は戻りますが、この横浜事務所にもWEP JAPANのどなたかがいらっしやるので、興味のある方は遠慮しないで是非遊びに来て下さいとのことでした。

WEP JAPAN:

Webサイト:<http://www.wep-japan.com/>

メール:wep@lilac.ocn.ne.jp

【横浜事務所】

〒220-0051

横浜市西区中央 1-25-14

Tel:045-313-4873

Fax:045-313-4874

【金沢事務所】

〒921-8811

石川郡野々市町高橋 5-28-504

Tel:076-248-3069

Fax:076-248-3009

(参考)

DioさんのWebサイト:

<http://www.wep-japan.com/wep4/Dio/indexj.htm>

【安部 保範 <chansuke@chansuke.net>】



事務所にある練習スペース



アート見物記

今期(10~12月)は11月の海外出張準備のためほとんどアート見物はできず、何しろ初回から欠かしたことのなかった静岡大道芸フェスティバルにすら行けませんでした。が、そんな私を不憫に思ったのか、神様は出張先で素敵なプレゼントを下さいました。

私はこの業界とは全く関係のない会社に勤めていて、サーカスを求めて出張しているわけではないので、出張先での限られた場所と時間でサーカスを観られるとは端から期待はしていないのですが、今回は偶然が重なりラッキーなことにブリュッセル(ベルギー)とマドリード(スペイン)でサーカスを楽しむことができました。サーカスを観たことよりも、むしろそこに到るまでの過程が印象深かったのをそれを含めてご紹介しましょう。

(ブリュッセル編)

ブリュッセルでの仕事も終え、明日はマドリードへ移動という夕刻に、ホテルのコンシェルジュにサーカス等のパフォーミングアーツを楽しめるところはないか聞いてみましたが、予想通り答えは“No”。

期待はしていなかったし、無愛想なヤツだったのでそれ以上は聞かずに、ならば市内観光でもするかと繁華街はどこか聞いてみると、歩いて10分ほどと地図を渡してくれました。

が、方向オンチの私はすぐに道に迷い、小腹もすいたのでお店に入りパンをほおばりながら自分のいる場所を教えてもらおうと、あらまっ90度の方角違いに歩いてきているのではないですか。

ひどい方向オンチだねえと地図で確認していると、このお店の近くに“Cirque Royale”という文字をたまたま発見!

これって、“王立サーカス(劇場)”ってこと?ならば実際に確認してみるかと、店を出て探したすとやはり道に迷う……やれやれ困ったものだ和我ながら呆れているとたまたま偶然にもチョコレート“Mary”のお店に出くわし、出張前からこのお店のチョコをお土産にしようと思っていたのでラッキー!、と即座に店に入りました。

店主に適当にチョコを見繕ってもらった後に、“Cirque Royale”の場所を教えてもらい、そこでサーカスは観られるのかとか聞いてみてもマダムはよく知らず、そこにたまたまいた若い店員が、そこはサーカス劇場ではなく今は歌手が出演していると教えてくれました。

なんだサーカスが観られると思っていたのに、とがっかりしつつ雑談なんぞしていると、店員はたまたま知っていた意外な情報を教えてくれました。

「……っていう公演は、アクロバットとかマジックとか馬が出てきたりして、面白いらしいわよ。友達がそう言ったもの。」

聞き取れない……が何か、そして何処にあるかを紙に書いてもらい、店を出て一応“Cirque Royale”を一見してホテルへ直行。

コンシェルジュに電話番号を調べさせ、公演時間が何時か電話で聞いてもらおうと、20時からの公演だが今晚は満席とのこと。

こりゃもう直に行ってキャンセル待ちでもするしかないと思い、ホテルの出口でお客さんを降ろしているタクシーをたまたまキャッチ。ドライバーが英語を話せることを確認して、いざ出陣。タクシーで15分ほど走ると、おっ、それらしきイルミネーションが見えてくるではないか。

サーカス名:Florilegio

Webサイト:<http://www.ilflorilegio.be/>



はやる気持ちを抑えつつ、通訳役(英語<-->仏語)のドライバーと共に受付に行き、キャンセル待ちをお願いするが、何やら今晚はTV収録かなにかがあり一般客は入れないとのこと。

もう明日はフライトなので何とかならないかと、手のひらを合わせてペコペコと頭を下げるがどうしてもダメ。諦めた私をよそにドライバーはまだ必死に頼んでくれるがそれでもダメ。いいヤツです。

がっかりとタクシーに乗り込みホテルに戻るよう頼むと、ドライバーは映画でも観に行くかとかしきりに慰め気を遣ってくれますが、そんな気にもなれずしばらく走っていると、明日息子と最近やって来たサーカスをたまたま観に行くけれどそこに行ってみるか、と言うではないですか。なに~っ、早く言えよおっ!って感じい-。

当然そのままそのサーカスに直行。
1958年の万博に建てられたアトムウムAtomium
近くの公園(と言うか森)の中にテントがありました。

サーカス名 : Bouglione
Webサイト : <http://www.bouglione.be/>



サーカスを堪能した後に、英語の話せるスタッフにタクシーを呼ぶよう頼み、10~15分位で来るよと言われ、外で待つこと45分……来ない。

サーカスの照明はとくに消え、団員たちは早くも自分たちのトレーラーに戻り、森の中ゆえあたりは真っ暗。ここでさらわれても誰も分からないだろうな等と不安が増す中、車はもう来ないだろうと、明かりのついているトレーラーのドアをノックし助けを求めて出てきた団長に事情を説明し、再度タクシーを呼んでもらい無事ホテルに戻ることができました。

(マドリード編)

土曜日の夕刻にホテルに到着し、早速ブリュッセルと同様にコンシェルジュに聞いてみると、やはり案の定答えは“No”。

今回はここで引き下らずに、そんなこと言わずに地元の新聞か何か見て下さいよ、と言うと渋々新聞を奥から持ってきてしばらく眺めていて、新聞の下段のほうを指さします。そこには“Circo”の文字が！

サーカス名 : Circo Mundial
Webサイト : <http://www.grancircomundial.com/>



たまたま1週間ほど前から公演を開始したばかりのようで、明日16日の日曜は12:00、16:30、19:30の3回公演で、場所はなんとラス・ベントス闘牛場とのこと。この闘牛場はスペイン最大の収容人数を誇り、闘牛界では最高峰として君臨している由緒ある所です。

翌日は待ちきれずに1時間以上も前に闘牛場に到着して、おっここが闘牛場か、この中にテントが張ってあるんだ、ときりに感激。闘牛場の周りでは観客目当ての移動式メリーゴーランドやお菓子やおもちゃを売るお店やらが軒を連ねて益々気分を盛り上げます。

30分前に開場し、闘牛場内に張られてあるテントの場所、つまり普段は闘牛士たちが命がけで闘っている砂場から、闘牛場の観客席を見上げた時には何だかゾクッと、そのゾクゾク感はサーカス進行中も失われることなく、徐々に大満足のサーカスでした。

平日の夜は会食があったり、週末は移動したりと、仕事以外に空いた時間に丁度ぴったりと当てはまるように、幾度となく続いたたまたまの繰り返しの結果、こうやって二つものサーカスに巡り会えたのは単なる幸運ではすまされないような、そんな思いをしたサーカス見物でした。

サーカス名 : Bouglione
観た日 : 11月14日20時 ~ 22時15分
料金 : 26ユーロ (一番良い席)

ひと言 :
ごんまりとしたサーカスで、猛獣ショーを含む動物芸が全体の半分位を占めています。綱渡り、足芸、コントーションあるいはジャグリングなど大がかりなアクトは無いのですが、何よりも観客のノリが良いので楽しめました。

サーカス名 : Circo Mundial
観た日 : 11月16日12時 ~ 14時30分
料金 : 45ユーロ (一番良い席)

ひと言 :
こりゃ文句なく楽しめました。ひょっとして今まで観たサーカスで一番かもしれない。中国、北朝鮮、韓国、ブラジル、ドミニカなど各国のアーティストが集結しての超一流、しかも初めて観るようなアクトには歓声の連続です。いや~、どれをとっても面白かったけれど、北朝鮮の“人間弾丸飛行”は想像を絶し、度肝を抜かれました。

[安部 保範 <chansuke@chansuke.net>]



サーカス便り

【Circo Escola (サーカス学校)に通って】

突然ジャグバルさんにお邪魔します。
わたしは現在ブラジルのサンパウロ在住、44歳男性です。職業は日本語教師、ここでブラジルの人たちに日本語を教えています。

で、趣味はジャグリングなんです。でもなかなか上手になりません。日本にいるときには時間がなかったり、教えてくれる人がいなかったりで、たまに練習をしてもさっぱり上達しませんでした。

でもブラジルでは時間も比較的あるし、できればひうまくなって帰りたいと思っていました。またブラジルにはサーカスの学校があるという話も、どこからか聞いていました。まずしい身寄りのない子どもたちを集めた、半分社会福祉施設のようなところだという話も聞きました。

私が見つけた学校はCirco Escola Picadeiro という、趣味の学校です。以前は常設でサーカスの公演を行っていたそうですが、今は学校だけで、1日に3回授業をしているそうです。生徒数は150人ぐらい。動機も健康のためという人から、街頭パフォーマンスでお金を稼ぐ人まで、さまざまのようです。

私は週1回90分で、1ヶ月の学費が90ヘアイス(約3500円)のコースに申し込みました。テントの中ではサーカスの花形空中ブランコ、トランポリン、天井からぶら下がる紐に絡まる曲芸(名前がわからん)、玉乗り、足がながーくなる竹馬、マリオネットのパントマイム、ジャグリングと、いろんな練習をする人がいます。90分の間、どこで何を練習をしてもいいというシステムです。私のもっぱらジャグリング一筋で練習しています。

私が行く夜の部は、大体いつも20人ぐらいの生徒が練習しています。かなり本格的な技を磨いている人もいれば、今日から宜しく願います、といった感じの人まで、いろんな人が練習しています。

先生たちは、このサーカスの団員さんで、みんなテントの周りにとめてあるキャンピングカーに住んでいます。わたしの師匠はサンドラ先生という、この道30年のベテランです。このサーカスで生まれ、子供の時からずっとジャグリングとともに生きてきた人です。

でもサンドラ先生の娘さんはジャグリングではなく空中ブランコをやっているそうです。

サンドラ先生の一番弟子はフィリップという男性ですが、彼はもう5本のクラブを自由に操っています。もう技ではきっとサンドラ先生以上です。このCirco Escola Picadeiroはときどき「Um Dia no Circo」(一日だけのサーカス)という公演を、町の学校の子供向けに開催します。フィリップはそれに出演するぐらいの腕前なのです。

サンドラ先生の弟子には他にもコンジュという韓国移民の娘さん、フェルナンドという少し街頭でパフォーマンスをやっているらしい、玉に乗ってクラブパッシングができるくらいの人などがいます。他にもたくさんいますが、そのほとんどはわたしのように趣味で練習しているか、健康のためにやっている人たちです。

でもブラジル、特にサンパウロやリオデジャネイロなどの大都会では、ジャグリングにも少し違った側面があります。

サンパウロの町を車で走っていると信号で止まるたびにいろんな物売りがよってきます。お菓子や花束、ハンガーや歯ブラシなどの日用品からぬいぐるみやテレビゲームといった遊び道具まで、ほんとにいろんなものを売っている人がいます。

中にはペットボトルに入れた石鹼水で車の窓ガラスを勝手に洗ってお金を要求する人たちもいます。貧富の差が、日本では想像できないぐらい激しいこの国では、仕事のない人が大勢います。

5人に一人は失業者であるという説もあります。彼らはファベラと呼ばれる貧民街を形成し、大勢の人たちが着の身着のままに暮らしているわけです。そして収入を得るためにいろんなものをどこから手に入れてきて信号で売り歩くわけです。

で、この物売りに混ざって多いのが、信号パフォーマンス者たちです。信号待ちをしている車の前で、いろんな芸を披露して、小銭を稼ごうというもの。一番多いのがデビルスティックを使った芸です。おそらく手作りの道具でコストがかからないためでしょうか。

子供たちが多いのですが中にはプロ顔負けの芸を披露する芸人もいます。ファイアースティックやバレーボールを使った4つ球ジャグリングもみかけたことがあります。そういう芸に出会ったときにはいくらかお金をあげても惜しくありませんが、他のほとんどはお金を稼げるほどの芸にはなっていません。でも貧しい子供たちが一生懸命やっている、というので、いくらか渡している人も多いようです。

昨日も7時半から9時まで、サーカステントの学校へ行ってきました。わたしはまだまだみんなとポルトガル語で自由に話せないのでもくもくと練習します。みんなは結構おしゃべりに花を咲かせながら練習しています。



テント内での練習風景

でもサンドラ先生の指示はすべてポルトガル語ですが、なんとなく全部わかります。うまくくとほめてくれているのもわかります。他のみんなが親指を出して「やったね」といつてくれているのもわかります。

また来週も仕事の後「ボアノイチ」(こんばんは)と学校に入るのを楽しみにしています。

(参考)

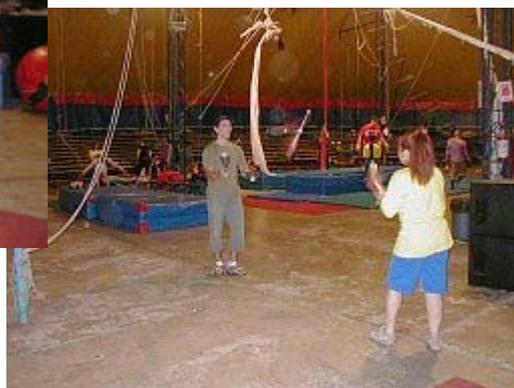
みうらのサイト:

<http://homepage3.nifty.com/miuratakashi/>

サンパウロ便り:

<http://mtmiura.hp.infoseek.co.jp/circo/circo.index.htm>

[国際交流基金サンパウロ日本語センター
三浦 多佳史
<miura@fjso.org.br>]



ショップ紹介

クラウンとパフォーマンスグッズの店『Wテイク』は、クラウンによるクラウンのためのパフォーマンス道具を販売しています。

店名:

W(ダブル)テイク

取扱い商品:

クラウン用品(衣装、靴、鼻、ハット、カツラほか)、メイク用品、ジャグリング道具、マジック道具、バルーン

場所:

〒453-0804

名古屋市中村区黄金通 3-27-1

連絡:

Tel:052-483-5959

Fax:052-483-5956

メール:tama@pleasure-p.co.jp

Webサイト:

<http://www.pleasure-p.co.jp/wttop.html>

営業:

10:00 ~ 19:00

土・日・祝日は休業日



WテイクのWebサイト



イベント情報

第1回 さいたま新都心大道芸フェスティバル
・1月10,11日 11:00~16:00 雨天決行
・さいたま新都心けやきひろばにて
・ヘブンアーティスト
・<http://www.saitama-arena.co.jp/topics0320.html>
・さいたまアリーナ
Tel 048-601-1122(10:00~19:00)

ヘブンアーティスト in SHIBUYA
・1月12日 12:30~15:30
・渋谷 文化村通り・道玄坂
・ヘブンアーティスト

CLOWN TIME 2004 星屑の海へ
・1月16,17日:千代田区内幸町ホールにて
・RONE & Gigi ほか
・<http://www.op-sesame.com>
・03-3765-1006
・fun@op-sesame.com

KOYO MIME LIVE:2004
・1月20,21,22日:目黒区こまばアゴラ劇場にて
・山本光洋
・<http://www.koyoworld.com>
・03-3823-8898

ななな & YoshimiのそろSOLOやりますか!
・1月31日,2月1日:中野区テルプシコールにて
・ななな, Yoshimi
・<http://www.geocities.co.jp/Hollywood/6173/>
・080-3257-3118
・mouikai777@yahoo.co.jp

CLOWN! CLOWN! CLOWN! 2004
・2月18日:名古屋市西文化小劇場にて
・2月21,22日:名古屋市東文化小劇場にて
・クラウンファミリー・プレジャーB
・<http://www.pleasure-p.co.jp>
・052-483-7779
・tama@pleasure-p.co.jp

第3回東京国際フル祭 2004
・3月8日~14日:文京区三百人劇場にて
・BP ZOOM, Okidok2, Cie Baladeu'X, Steve Marshall ほか
・<http://www.accircus.com>
・03-3403-0561
・info@accircus.com

編集後記

さあ、新しい年の始まりです!

振り返ってみると去年は40回近く劇場などに足を運び様々なアートを楽しみました。

今年はどんなアートに出会えるのでしょうか、今からとてもワクワクしています。

先号のジャグパル21号でもお知らせしたように、フランス在住の森田裕子さんが書かれた『内側の時間 - 旅とサーカスとJ・L・G』という書籍の発刊に向けて、私も協力者の一人として活動しています。

詳しくは以下のWebサイトをご覧ください。

“べらだん” <http://www.chansuke.net/peradan/>

また本サイトでは森田裕子さんのエッセイを読むことができますし、交差点(掲示板)ではアーティストの日記やインタビュー記事なども読むことができます。

是非お立ち寄り下さい。

私が横浜に在住のためどうしても情報などが関東圏に偏りがちです。他の地域にお住まいの方々も何かありましたら、メールなどで気軽に声をおかけ下さい。

ジャグパルは私という一個人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行していて、特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人には一切関係しているものではありません。ジャグパルはWeb上でも見られますので、紙での郵送が不必要な方はご連絡ください。

WebサイトJugPal: <<http://www.chansuke.net/jugpal/>>

編集発行人:安部保範

住所:横浜市栄区公田町424-9 (〒247-0014)

見世物広場: <http://www.chansuke.net>

E-mail: chansuke@chansuke.net